

平成 31(2019)年度 事業計画

(2019年4月1日～2020年3月31日)

学術講演会や研究会など魅力溢れる各種イベントの開催、賛助会員の学会運営への参画、学会連携の促進など各種施策の実行を通して、会員への更なるサービス向上に努めていく。平成 31 年度も財政的に厳しい状況が継続すると認識しており、財務体制改善に関する取り組みやガバナンスの強化を一層進める。

本年度は特に下記の 6 点の活動を重点的に進める。これにより、磁気の基盤研究とその産業応用を牽引し、社会に貢献できる学会として邁進する。

◎学会活動のポイント

1. 特任理事の新設とともに理事会主導による学会業務の推進機能の強化・充実
2. 財務体制の強化
3. 新分野創出を担う専門研究会の活動の周知・活性化
4. 学会連携の促進による新分野の構築および活性化
5. 各種媒体を用いて本学会の魅力を会員・非会員に伝える広報活動の強化
6. 賛助会員の学会運営への意向反映と参画強化

I 事業の状況

1. 研究発表会、講演会等の開催(定款4条1号)

1. 1 学術講演会

- ・ 磁気に関する基礎から応用までの全般にわたる研究成果の発表・討論の場として学術講演会を年度内に1回開催する。
- ・ 本年度は、2019年9月25日(水)から27日(金)まで、京都大学吉田キャンパス(京都府京都市)において第43回日本磁気学会学術講演会を開催する。本年度の学術講演会は、これまでと同様に国内外の新しい磁気に関する研究成果をもれなく集め、約80セッションを設け、約500篇の講演論文を集めて行う予定である。また、昨年度に続き、シンポジウムセッション・オーラルセッションに加えてポスターセッションを併設する他、学会活性化のための施策として、男女共同参画懇談会の実施も併せて行う予定である。
- ・ 本年度よりフェロー制度の制定に伴い、フェローとなられた方々の業績を讃えるイベントとして、新たに「フェロー記念講演」を学術講演会内において実施する。

1. 1. 1 学術講演会におけるシンポジウムの公募

- ・ 第43回日本磁気学会学術講演会で開催予定のシンポジウムを引き続き公募制として、魅力あふれるプログラムの構成を進める。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

1. 1. 2 学術講演会における非会員の講演登壇

- ・ 第43回日本磁気学会学術講演会も引き続き非会員による講演登壇を可能とする。非会員であっても登壇料の支払いを以って講演を認めることにより、投稿数の増加を期待する。

1. 1. 3 学術講演会の概要集のウェブ配信化

- 第 43 回日本磁気学会 学術講演会の概要集についても、昨年同様にウェブ配信とし、会員の利便性の向上を図る。別途料金を事前に支払うことで、概要集を従来の冊子形式で受け取ることのできる従来のサービスも一部継続する。

1. 1. 4 学術講演会の賛助会員の事前ウェブ登録の実施継続

- 第 43 回日本磁気学会 学術講演会においても、賛助会員の事前登録を学術講演会ホームページから引き続き行えるようにする。賛助会員の事前登録を実施することにより、賛助会員の利便性向上だけでなく、受付業務の簡素化や学術講演会参加者の増加も期待できる。

1. 1. 5 学術講演会におけるポスターセッションの継続

- 第 42 回日本磁気学会 学術講演会から再開したポスターセッションが好評であったことから、第 43 回日本磁気学会 学術講演会においても、ポスターセッションの開催を継続する。ポスターセッションを併設することによって発表形式の多様化が進むことから、賛助会員や会員にとって、より参加し易い学術講演会となる。また優秀なポスター発表の中から、ポスター講演賞の表彰を行う。

1. 1. 6 フェロー記念講演の開催

- 第 43 回日本磁気学会 学術講演会から、昨年度フェローの称号を新たに授与された方々によるフェロー記念講演を開催する。これにより会員の議論の更なる活性化が期待でき、参加者の満足度の向上につなげる。

1. 2 研究会

- 新しく、また興味深い磁気およびその応用を主題とした研究会を、年 5 回を目安として定期的で開催する。本年度の研究会の開催計画は次のとおりである。

	開催期日	研究会の主題(仮題)
第 223 回	2019 年 5 月	磁性分野におけるマテリアルズインフォマティクス現状
第 224 回	2019 年 7 月	磁気キャパシタンス効果の新展開
第 225 回	2019 年 11 月	超伝導応用
第 226 回	2020 年 1 月	スピントロニクス
第 227 回	2020 年 3 月	化合物新磁性材料

1. 3 講習会、公開講演会など

- 「日本磁気学会 初等磁気工学講座」と「日本磁気学会 サマースクール」を、6 月に開催する。日本磁気学会 初等磁気工学講座は 6 月 18 日(火)に、また日本磁気学会 サマースクールは 6 月 19 日(水)～6 月 21 日(金)に、それぞれ中央大学駿河台記念館で開催する。東京開催とすることで、昨年と同様、参加人数の増加を期待する。
- 青少年を対象に、磁気に関する啓蒙的講座を年 1～2 回程度開催する。

1. 4 専門研究会

- ・ 専門研究会の活動は将来の学会を担う重点項目と位置づけ、理事会主導で活性化と新展開を進める。
- ・ ナノマグネティックス専門研究会、スピントロニクス専門研究会、化合物新磁性材料専門研究会、強磁場応用専門研究会、光機能磁性デバイス・材料専門研究会、バイオマグネティックス専門研究会、エネルギーマグネティックス専門研究会、磁気センサ専門研究会をそれぞれ年2回以上開催する。

1. 5 岩崎コンファレンス

- ・ 第6回岩崎コンファレンスを、平成31年6月10日～11日の日程で中央大学駿河台記念館において開催する。今回は情報社会に続く Quality of Society の更なる進展に向けて、「磁気技術が拓く IoT エコシステム ～Quality of Society のさらなる進展に向けて～」をテーマに開催する。記念講演、特別講演、基調講演、招待講演の約15件を予定しており、「Society 5.0」IoTに関する国家戦略ならびに産業界の捉え方、IoTの社会への展開事例やデバイスの基礎、IoT活用による Quality of Society の進展などについて議論を深める。

2. 学会誌その他の図書の刊行(定款4条2号)

2. 1 学会誌および学会報の発行

- ・ 平成31年度内に、学会誌「Journal of the Magnetism Society of Japan」を、Vol.43, No.3(通巻第303号)から Vol.44, No.2(通巻第308号)まで隔月で年度内に6回発行する。「Journal of the Magnetism Society of Japan」は英語の本論文やレビュー等、磁気の研究を掲載する。
- ・ 学会報「まぐね」を Vol.14, No.2(通巻第110号)より Vol.15, No.1(通巻第115号)まで隔月で年度内に6回発行する。「まぐね」は特集記事(解説、トピックス)を中心に、論説、連載講座、磁気研究よもやま話、新製品・新技術等を掲載し、磁気分野の最新情報発信源とする。
- ・ 学術講演会での発表を前提とした論文誌「日本磁気学会論文特集号」Vol.3を年1～2回発行する。
- ・ 学会誌および学会報の充実のため、専門研究会論文の学会誌への投稿を推進するとともに、賛助会員の学会報まぐね「新技術・新製品コーナー」への積極的投稿をサポートする。
- ・ 学会誌の論文審査が迅速化したことや、投稿手順を分かりやすくホームページやチラシ等で示すこと等、学会誌への投稿の魅力を広く会員にアピールすることによって、投稿件数の持続的な底上げを図る。
- ・ 学会誌もしくは論文特集号へ投稿された、優秀な論文に対して MSJ 論文奨励賞を授与し、若い研究者の意欲増強を図る。

2. 2 出版活動の推進

- ・ 本年度も編集委員会が中心となって出版事業を推進する。平成31年度は、教科書シリーズ1巻、啓発書シリーズ1巻の発行を目指して、原稿の収集、刊行の手続きを進める。

2. 3 Journal of the Magnetism Society of Japan の活性化と SCOPUS 登録に向けた取り組み

- ・ 昨年度に Journal of the Magnetics Society of Japan の SCOPUS 登録申請を行った。審査結果の連絡を待ち、フォローアップする。
- ・ Journal of the Magnetics Society of Japan の活性化として以下の取り組みを実施する。
 - (1) 論文の査読の迅速化
 - 査読体制の見直しを行い、査読の迅速化を行う。
 - (2) Review 論文の充実
 - 理事会、各専門研究会と連携し、多くの会員に執筆を依頼する。
 - 編集委員会より依頼した Review 論文には原稿料を支払う。
 - 学会賞・業績賞・優秀研究賞受賞者による Review 論文を掲載する。
 - (3) 投稿論文の充実
 - 専門研究会からの投稿を募る。
 - 投稿論文 55 本を目標とする。理事会や各委員会へ協力をあおぐ。
 - 引用数の拡大に関する呼びかけを進める。
 - (4) 電子ジャーナルの OPEN ACCESS を継続する。

3. 出版物等の広告および会員獲得のための広報活動強化

- ・ 出版物等の広告と会員数拡大を目指し、各種電子媒体と連携して戦略的な勧誘活動を行う。理事会が主導し広告代理店と協力して広告掲載数を増加させるとともに、会員への情報提供の場を拡げ、企業・会員の双方にとって魅力ある情報交流の場を提供する。
- ・ チラシ・パンフレット・ポスターなどの紙媒体を用いて、学術講演会、研究会、専門研究会などにおける会員・賛助会員の勧誘活動を推進する。

4. 研究の奨励および研究業績の表彰(定款4条4号)

- ・ 平成 31 年度も、学会賞、業績賞、優秀研究賞、論文賞、学術奨励賞(内山賞)、学生講演賞(桜井講演賞)、技術功労賞、学会活動貢献賞、新技術・新製品賞、および出版賞の表彰を行う。
- ・ 学会における継続的な活動を通して磁気の学理と応用に関する研究の進展に多大な貢献があった者に対して、フェローあるいはライフフェローの称号を授与する。特にフェローには論文誌へのレビュー記事の投稿や次年度の学術講演会におけるフェロー記念講演等、学会活動の活性化・論文誌の魅力向上につながる活動への協力をお願いする。
- ・ MSJ 論文奨励賞・ポスター講演賞・学術奨励賞・学生講演賞の受賞者を学術講演会の懇親会へ招待し、会員間の交流の促進および継続的な活躍を動機付ける場を提供する。

5. 内外の関連学協会との連絡及び協力(定款4条5号)

- ・ 米国電気電子技術者協会(IEEE)との National Society Agreement (NSA)および IEEE Magnetics Society との Sister Society Agreement (SSA)に基づく相互協力を継続する。特に、昨年度スタートした「IEEE Magnetics Society の各 Japan chapter の代表者」と「MSJ の会長・副会長・理事の代表者」との交流の機会を今年度も継続し、他学会との連携を

推進する。

- ・ 国内関連学会に加え、国外の関連学会等では、韓国磁気学会(KMS)、台湾磁気技術協会(TAMT)、中国、ロシア、ベトナム等と Asian Union of Magnetism Societies (AUMS)を中核として相互協力および情報交換を行う。その中で、平成 31 年度においては、最近 AUMS に加わったロシアでの AUMS 会議において、IcAUMS2020 等に向けた密な情報交換を行う。
- ・ AUMS カウンシルミーティングへの参画や IcAUMS の運營業務は主に国際委員会が担ってきたが、新たに欧米を含む関連国際会議との連携についても検討を進める。
- ・ 学術講演会における英語発表促進の検討など、国際的な参加者数の拡大を図るほか、INTERMAG や MMM など国際会議の参加者のうち、本学会未入会者に対する入会勧奨や学術講演会への参加喚起を実施し、本学会のすそ野を広げる活動を進める。
- ・ 本学会が主催して開催する IcAUMS2020(2020 年 12 月に沖縄コンベンションセンターにて開催予定)について、現地の大学教員とも協力しながら準備および周知活動を進める。

II 会議

平成 31 年度に開催する主要な会議である総会、理事会および顧問会等は次により実施する。

1. 総会

- ・ 通常総会は平成 31 年 6 月 17 日(月)に開催する。平成 30 年度事業報告および収支決算、平成 31 年度の事業計画および収支予算、定款変更、新役員体制などについて、審議および議決する。

2. 理事会

- ・ 平成 31 年度の理事会は、原則として 6 回開催し、総会および顧問会への提出議案の作成、総会での決定事項の実施、会務の整備、各事業の充実等について審議する。
- ・ 公益法人としてのガバナンスおよびコンプライアンス体制強化のため、副会長担務の明確化(運営戦略担当、学術連携担当)による委員会相互の連携強化、および、理事会決定事項の実行責任・過程の見える化を継続して推進する。
- ・ 新たに特任理事(男女共同参画担当、学会連携担当、国際会議担当)を置き、学会に山積している諸課題を集中的に解決していく。
- ・ 広告数増を目指した活動や、会報「まぐね」の電子化に関する検討など、理事会で積極的に対応すべき事象に特化したタスクフォースを立ち上げることによって、会長のガバナンスのもと、副会長を中心として柔軟に対応できる体制を確立し、問題解決を確実に実行していく。

3. 顧問会、懇談会

- ・ 学会の諸活動に関して会長、副会長および理事会に意見を具申する機会として、学術講演会の期間中に顧問会を開催する。
- ・ 名誉会員および賛助会員の学会活動に対する意見を収集するため、名誉会員懇談会および賛助会員懇談会をそれぞれ年 1 回開催する。

- ・ 収集した意見について副会長および総務理事が中心となって検討を行うとともに、課題に応じて担当する理事を指名し、各委員会で確実に解決・実行を進める。

Ⅲ 公益法人運営体制の確立について

公益法人である本学会が今後も持続的に発展できるよう、コンプライアンスに留意しつつ、理事会が主導して運営を進める。本学会の活動の大きな柱である、学会誌の発行、学術講演会・研究会・専門研究会の開催は、これまで通り魅力あふれるよう継続していく。

1. 理事会主導による学会改革活動

- ・ 日本磁気学会の継続的発展を図るために、財務体質の改善および会員サービス向上を目指して、理事会主導による学会改革活動を強力に推進する。
- ・ 公益法人として、ガバナンスおよびコンプライアンス体制の強化に関わる業務を推進する。
- ・ 会長のリーダーシップのもとに副会長の担務明確化を図り、各種の課題に着実に対応できる強い理事会体制を構築する。

2. 財務体制の強化

- ・ 財務委員会の活動を拡大し、予算・執行状況の管理のみならず、財務体制の強化に関する施策案を取り纏め、各委員会へ提言していく活動を推進する。学会の赤字体質脱却に向け、各委員会への働きかけを推進し、会員や企業に魅力あふれる学会の構築を目指す。
- ・ 昨年度、副会長（運営戦略担当）をトップとして広告タスクフォースを立ち上げ、学会誌、学会報、学術講演会概要集等における広告掲載数ならびに企業展示の増加を図ったところ、広告収入が大幅な増加となった。今年度も理事会の責任で、広告・展示勧誘活動を継続する。
- ・ 財務基盤の抜本的改革が早急に求められているため、会費および学術講演会の参加費等の値上げを含め、会員の意向を確認しつつ理事会で議論を深め、今後の方針を決定する。
- ・ 会報「まぐね」に関する支出減を実現するため、印刷・出版費支出と広告収入のバランスなど諸課題を検討する新たなタスクフォースを立ち上げ、今後の在り方について議論を進める。
- ・ 将来の学会を支える若手会員増加のための各種施策を検討し、学会活動の持続的な活性化に反映させる。

3. 本年度の各委員会活動ポイント

◎総務委員会：

- ・ 理事会決定事項の進捗把握を進め確実な推進を行う。
- ・ 賛助会員の学会運営への参画に対する各種取り組みを推進する。
- ・ 男女共同参画事業など会員の満足度を向上させる各種取り組みを推進する。
- ・ パワーマグネティクス分野などの、本学会の“ウィークポイント”を活性化させるべく、他学会との連携を強力に推進する。
- ・ IcAUMS2020, INTERMAG2023 などの国際会議の開催準備を中心となって進める。

◎財務委員会：

- ・ 財務内容に大きくポジティブ/ネガティブなインパクトを与える活動の洗い出しを進める。
- ・ 会費収入増にむけた施策を提言する。

1. 年会費見直し
 2. 新しい磁気技術分野の会員獲得
- ・財務改善のため支出減に向けた施策の検討と提言を進める。
委員会活動費の見直し(web 会議の試行・奨励)、各種印刷物の電子化推進など

◎企画委員会:

- ・賛助会員や会員にとって魅力的で参加し易い研究会、初等磁気工学講座・サマースクール、学術講演会を開催・運営する。
- ・専門研究会の活動の活性化を進める。
- ・学術講演会における公募シンポジウムの充実を図る。

◎編集委員会:

- ・和文論文の投稿可能な論文特集号を発行して、論文投稿数の拡大を継続する。
- ・学生にとって論文投稿が魅力的となるべく、MSJ 論文奨励賞の授与を継続する。
- ・査読体制の見直しにより、査読の迅速化を行う。

◎広報委員会:

- ・各種媒体を用いて、本学会の魅力を会員・非会員に伝える広報活動を強化する。
- ・技術情報サービスのあり方を見直し、各種学会活動への誘導を図る。
- ・ホームページ上のコンテンツ「磁気に関する Q&A」を改善し充実させる。
- ・学会誌へのアクセスを向上させるべく、ホームページの構成など周知の在り方について検討を進める。

◎国際委員会:

- ・本学会と海外学協会との連携維持・強化を進め、国際的なプレゼンスを高める。
- ・学術講演会等における英語発表促進等の検討など、国際的な参加者(ポスドクや滞在研究者など)数を拡大する活動を開始する。